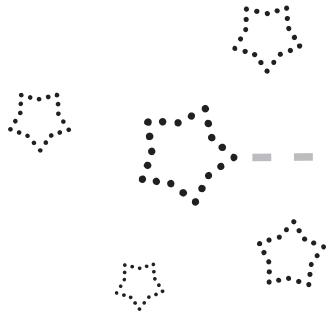


第1部 全体の調査結果

## 第2章

# 子育ての気がかり、 しつけや教育情報源

山岡 テイ



子育て生活の気がかりは、なにより子どもの安全確保である。「しつけの方法」「子どもの性格、態度や様子」「友だちとのかかわり」は母親共通の関心事である。上位3位までの気がかりは2人に1人以上があげていた。

### ● 食生活への関心が高まり、上位3位までは半数以上の母親の気がかり

子育て生活での「悩みや気がかり」を子どもの日常生活から母親自身のことまでを含めた45項目から複数回答してもらった。

その結果、第1位は「犯罪や事故に巻き込まれること（「犯罪や事故」、以下同）」73.3%、第2位は「ほめ方・しかり方」55.3%、第3位は「しつけのしかた」52.4%となり、上位3位までの順位項目は03年調査と同様であった（図1-2-1）。

さらに、今回の上位3位まではいずれも母親の半数以上が気がかり項目としてあげていた。

上位10位までの中で目立つのは食生活関連の悩みや気がかりが4項目あったことである。

97年調査からの経年変化では「量や栄養バランスを考えた食事の与え方（「食事の与え方」、以下同）」（97年調査39.8%→03年調査43.8%→08年調査48.2%、以下同）、「食事のしつけ」（39.1%→42.8%→43.2%）で、とくに家庭内での食事への対応項目が年々上昇している傾向がみられた（p.169 巻末基礎集計表参照）。

母親の子育ての悩みや気がかりは、なにより子どもの安全確保であり、子どもを取り囲む社会や生活環境の中での安全性は必須事項である。

その一方で、日々接する子どもの言動にどのように対処するとよいのかを悩んでいる様子が上位10項目までにあげられている項目に表れていた。

子どもの「しつけのしかた」や「子どもの性格、現在の態度や様子（「子どもの性格、

態度や様子」、以下同）に頭を抱えており、園や近所の「友だちとのかかわり」が多くの母親に共通する関心事であった。

### ● しつけ・生活習慣に悩む保育園児の母親、子どもの安全性が心配な幼稚園児の母親

就園状況別に数値の相違が大きい「悩みや気がかり」項目を示したのが図1-2-2である。

幼稚園児の母親のほうに多い項目は「犯罪や事故」「友だちとのかかわり」「食の安全性」「食中毒」であった。幼稚園が終わった後の時間が長いとか、犯罪や事故に巻き込まれる危険性が高いことや、園の内外や近所での子ども同士のつきあいが関心事となっていた。また、「食の安全性」や「食中毒」も保育園児の母親より多く心配していることが明らかであった。

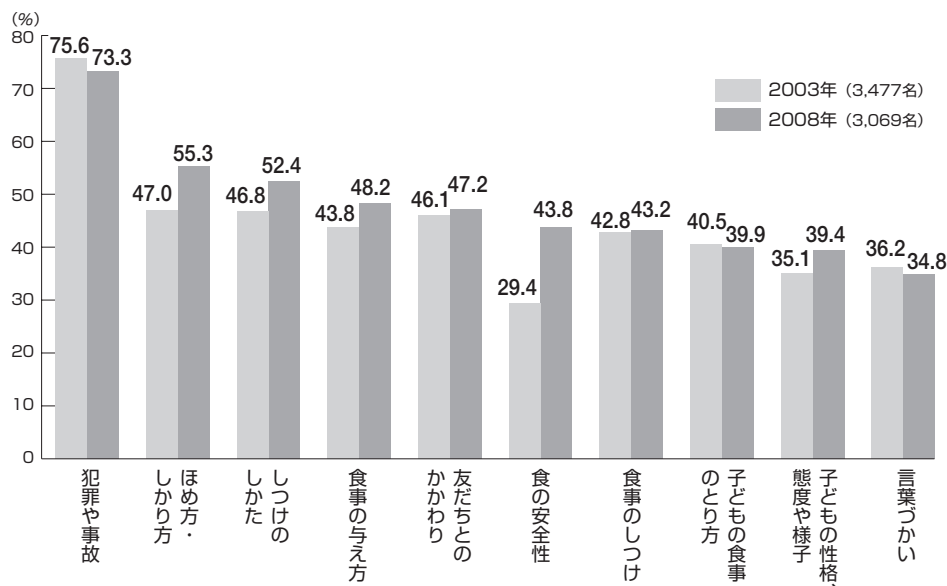
一方、保育園児の母親のほうは「食事のしつけ」「言葉づかい」「生活リズムと起床・就寝時間（「生活リズム」、以下同）」「いじめ」「睡眠時の習慣・癖や様子」「アレルギー」などであった。園での昼寝と起床就寝時間とのバランスなど生活リズムや日常のしつけや生活習慣を思い悩む母親の姿がうかがえる。また、母親自身のことでは、幼稚園児の母親は「これからの生きがいや始めたいこと」を、保育園児の母親は「仕事に関すること」をそれぞれが大差であげていることに現状の生活が表れていた。

なお、「その他」としては128名が自由記述をしていた。その中でもっとも多かった内容は、「経済面・お金に関すること」で20.3%、

次いで「家族の病気」15.8%、「きょうだいとのかかわり」14.8%の他、「仕事と家庭の両立」および「親（祖父母）の介護」がそれ

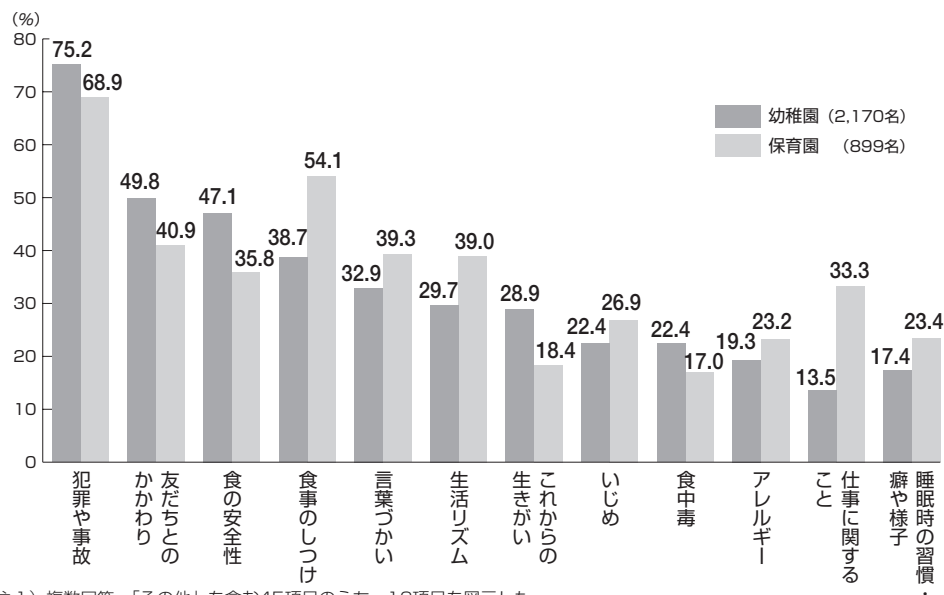
ぞれ10%であった（自由記述をした人を母数にした比率）。

図1-2-1 子育ての悩みや気がかり（経年比較）



注1) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、10項目を図示した。  
注2) 項目は一部略記した。詳細は調査票見本 (p.155) を参照。

図1-2-2 子育ての悩みや気がかり（就園状況別の相違項目）



注1) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、12項目を図示した。  
注2) 項目は一部略記した。詳細は調査票見本 (p.155) を参照。

● 男子は食生活やしつけのしかた、  
女子は安全性や友だちづきあい

母親の子育ての関心事は子どもの性別や学年を重ねるごとの成長発達によっても変化していく（表1-2-1）。

上位10位までを比べると、全体では男子のほうが女子より心配が多い傾向にある。年少児は「食事のしつけ」「食事の与え方」「子どもの食事のとり方」が目立って多い。年中児では「ほめ方・しかり方」「しつけのしかた」が中心となり、年長児は「子どもの性格、態度や様子」などに手を焼いている様子が表れていた。首都圏全体で女子に多い心配項目3つの中で、とくに「犯罪や事故」と「食の安全性」は年少児で男子との開きがみられた。「友だちとのかかわり」は年中児や年長児になると男子より女子のほうに多い悩みや気がかりとなる。この項目はその後、小・中学校へと続き、女子の母親に多い悩み事の始まりの兆しといえよう。

● しつけや食生活への関心は減少、  
入学を意識した習慣づけ項目が増加

上位項目の中でも学年が上がると減少する項目は図1-2-3で、学年とともに増加する項目は図1-2-4である。

「しつけのしかた」「食事のしつけ」「子どもの食事のとり方」「おねしょ、トイレのしつけ」「着がえ」など食事や排泄のしつけへの関心は学年が上昇するとともに減少していく。

一方、学年が上がるとともに増加するのは、「犯罪や事故」「子どもの性格、態度や様子」の他に、「友だちとのかかわり」「言葉づかい」「あいさつやお礼の習慣」など対人関係やマナー、社会性に関する項目である。さらに「小学校入学前の準備教育（「入学前の準備教育」、以下同）」「翌日のしたくや準備をすること」「習い事での練習や宿題」など、就学以前に子どもに習慣づけておきたい項目は増加率が高いことが今回の調査の特徴であった。

表1-2-1 子育ての悩みや気がかり（首都圏全体・学年×性別）

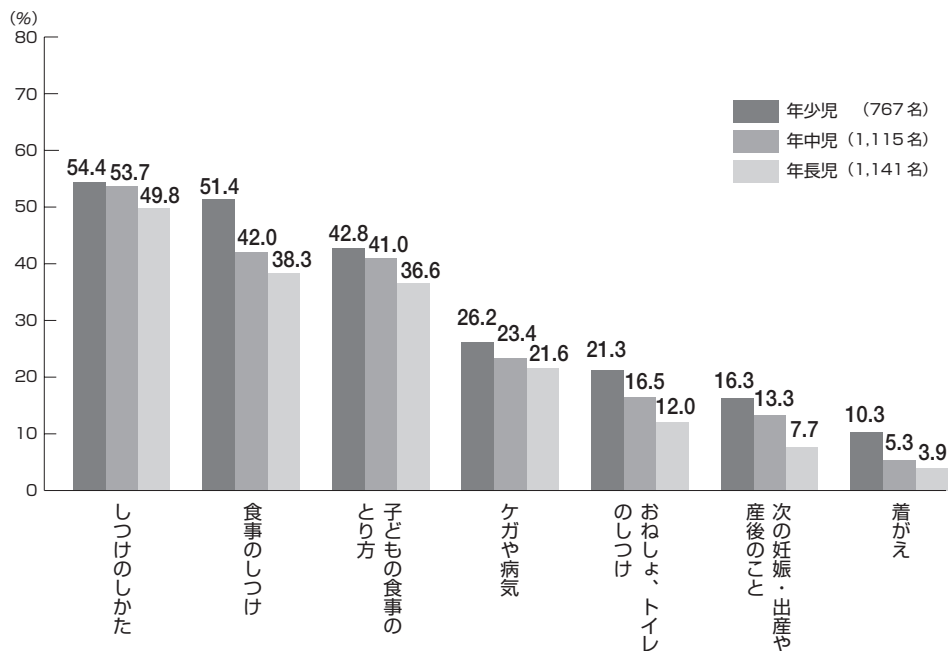
(%)

順位	首都圏全体 (男子1,607名 女子1,454名)		年少児 (男子406名 女子360名)		年中児 (男子597名 女子515名)		年長児 (男子584名 女子554名)	
1	犯罪や事故	男子 72.1 女子 74.7	犯罪や事故	66.7 70.8	犯罪や事故	72.2 73.6	犯罪や事故	76.0 78.5
2	ほめ方・しかり方	男子 56.3 女子 54.3	しつけのしかた	54.9 53.6	ほめ方・しかり方	57.3 51.8	ほめ方・しかり方	58.4 55.1
3	しつけのしかた	男子 53.9 女子 50.7	ほめ方・しかり方	52.0 56.7	しつけのしかた	56.1 51.1	友だちとのかかわり	49.5 52.2
4	食事の与え方	男子 48.7 女子 47.5	食事のしつけ	53.7 48.6	食事の与え方	47.9 48.5	しつけのしかた	50.7 48.7
5	友だちとのかかわり	男子 46.1 女子 48.3	食事の与え方	52.5 48.6	友だちとのかかわり	43.4 48.9	食事の与え方	46.7 45.1
6	食の安全性	男子 42.7 女子 45.0	友だちとのかかわり	45.3 42.8	食の安全性	40.9 44.1	食の安全性	46.6 45.1
7	食事のしつけ	男子 45.2 女子 40.7	食の安全性	40.9 46.9	食事のしつけ	43.2 40.4	子どもの性格、態度や様子	44.5 38.4
8	子どもの食事のとり方	男子 40.9 女子 38.9	子どもの食事のとり方	44.6 40.6	子どもの食事のとり方	42.2 39.6	食事のしつけ	40.9 35.4
9	子どもの性格、態度や様子	男子 40.0 女子 38.9	子どもの性格、態度や様子	35.5 39.4	子どもの性格、態度や様子	38.7 39.2	子どもの食事のとり方	36.3 37.0
10	言葉づかい	男子 34.8 女子 34.7	人間関係	35.5 36.1	言葉づかい	35.7 35.0	言葉づかい	35.6 37.4

注1) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、上位10項目を表示した。

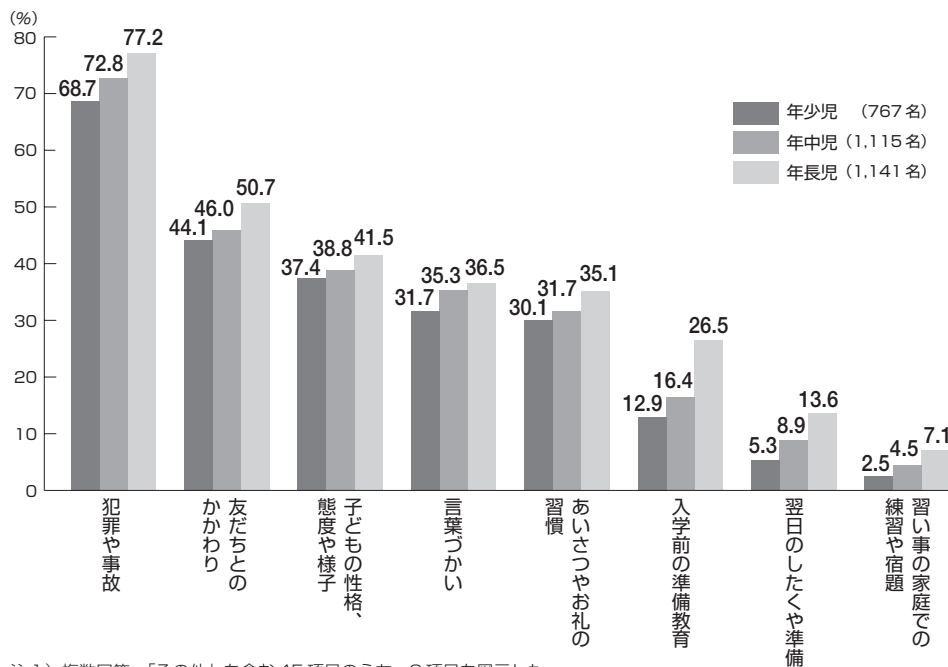
注2) 項目は一部略記した。詳細は調査票見本 (p.155) を参照のこと。

図1-2-3 子育ての悩みや気がかり（学年別、減少項目）



注) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、7項目を图示した。

図1-2-4 子育ての悩みや気がかり（学年別、増加項目）



注1) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、8項目を图示した。

注2) 項目は一部略記した。詳細は調査票見本 (p.155) を参照。

## 第2節

# 子育ての一番の悩みや気がかり

幼稚園児をもつ専業主婦の母親に気がかり項目が多い。男子の母親は子ども自身のことでの悩み、女子の母親は環境や人づきあいが心配。心の成長や就学準備の気がかりは年長児で増えていく。

### ● 健やかな育ちと安全、

#### 人とのかかわりが一番の関心事

子育ての悩みや気がかりとして複数回答した中から、さらに「現在もっとも気にかかっていること」を1つだけ選んでもらった。

その結果を就園状況別に上位10位までを比べたのが図1-2-5である。

第1位は「犯罪や事故」11.9%で、次いで「ほめ方・しかり方」9.6%、第3位は「子どもの性格、態度や様子」7.2%、第4位「しつけのしかた」6.7%、第5位は「友だちとのかかわり」6.2%であった。複数回答でたずねた「子育ての悩みや気がかり」の上位10位中では4項目も占めた食事関連の項目が、ここでは「子どもの食事のとり方」と「食事の与え方」の2項目のみとなり、さらに母親自身の「人間関係」「アレルギー」「教育費」があげられていた。

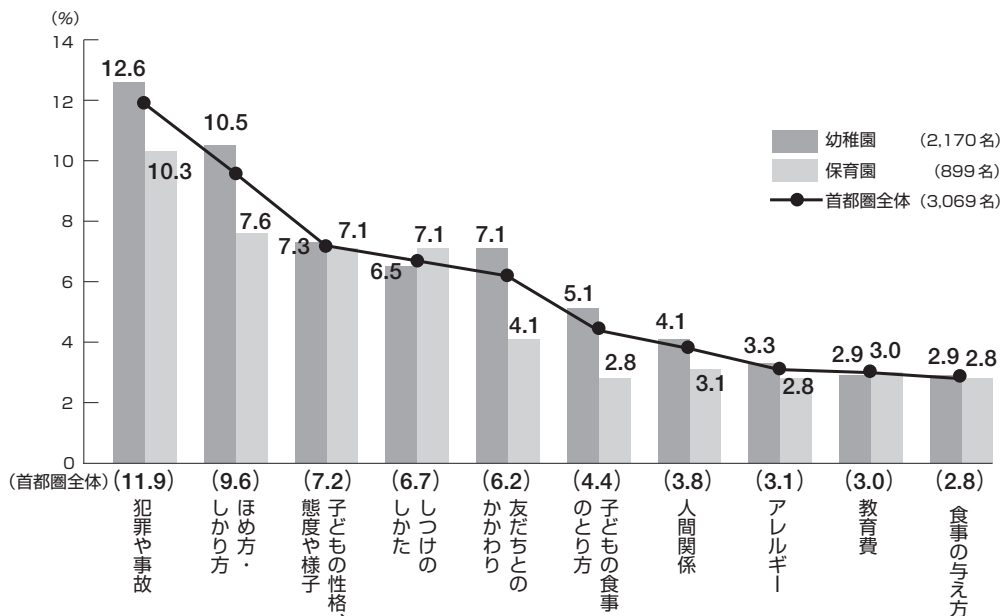
経年変化をみると、03年調査の「子育ての一番の悩みや気がかり」の上位10位の中で上位8位までが08年調査結果とまったく同じ順位の内容項目であった。97年調査では全体の選択肢項目が多少異なるために順位までは同様ではないが、年少児から年中児までの上位10位までには03年調査および08年調査の上位10位中、7つの同じ項目が含まれていた。11年の年月が経過して調査対象者である園児の母親も子育て環境も変化しているが、毎日の子育ての中で母親が思い悩む上位項目は共通している。それは日々子どもにどのように接することで、安全で健やかな育ちと友だちとの良好な関係づくりができるかに集約される。

### ● 幼稚園の母親のほうが保育園の母親より気がかりの数値が高い

「子育ての一番の悩みや気がかり」の上位20位までの中から、就園状況別に相違がみられる項目を抽出したのが図1-2-6である。

幼稚園児の母親のほうが、8項目中5項目が高い数値で、それらは「犯罪や事故」「ほめ方・しかり方」「友だちとのかかわり」「子どもの食事のとり方」、母親自身の「からだ（健康）の悩み」であった。保育園児の母親が多くあげたのは、「おねしょ、トイレのしつけ」「仕事に関すること」「言葉づかい」の3項目であった。就園状況別の母親の就業状況は、幼稚園は専業主婦が72.9%で多数を占めるが、パートやフリー17.6%、常勤2.7%もいる。保育園は常勤40.2%、パートやフリー45.9%と働く母親が86.1%、専業主婦は4.0%である。働く母親は職種や勤務時間、家族構成などの関係で両方の施設に子どもをあずけている現状である。そこで、就業状況別に比べると図1-2-6の就園状況別とは順位が異なっているため、その違いも付け加えておく（図表省略）。専業主婦で比率が高かった項目は、第2位「ほめ方・しかり方」11.1%、第4位「友だちとのかかわり」7.0%、第11位「からだ（健康）の悩み」2.8%と幼稚園項目に準ずる。次にパートやフリーの一番の気がかりとしては、第7位「教育費」4.2%、第11位「言葉づかい」2.6%があげられていた。全体順位では第15位の「仕事に関すること」が常勤では第3位で5.7%、第5位「次の妊娠・出産や産後のこと」4.8%など、それぞれの状況を反映した特徴が表れていた。

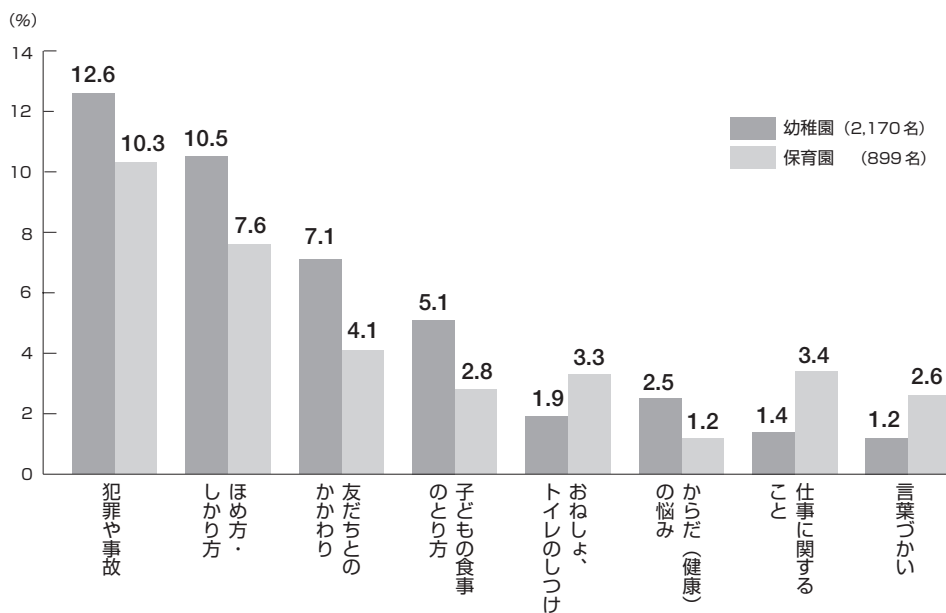
図1-2-5 子育ての一番の悩みや気がかり（首都圏全体・就園状況別）



注1) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、10項目を図示した。

注2) 項目は一部略記した。詳細は調査票見本 (p.156) を参照。

図1-2-6 子育ての一番の悩みや気がかり（就園状況別の相違項目）



注1) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、8項目を図示した。

注2) 項目は一部略記した。詳細は調査票見本 (p.156) を参照。

● 男子の母親は子どもについての悩み、  
女子の母親は環境や人づきあいの心配も

「子育ての一番の悩みや気がかり」を学年別と性別で比較したのが表1-2-2である。

全体的には女子の数値が高い項目が多いが、その中には母親自身の「人間関係」や「教育費」など家庭事情や自分の気がかり項目もある。「教育費」は習い事への出費も含まれており、他の習い事の質問ではスポーツ系は男子のほうが多いが、全般的には女子の選択率が高く、種類も多く、たくさん通わせているのが実情である。

母親自身の「人間関係」は、親子での友だちづきあいが始まる年少児の女子が高い。男子は「子どもの性格、態度や様子」に手を焼き、「子どもの食事のとり方」は幼稚園年中児に多いので、2年保育が始まった時期であることも関係していると思われる。年長児の第8位「入学前の準備教育」は男子の数値のほうが高かった。

● 発達段階で気がかり項目は減り、  
心の成長や就学準備項目は増える

「子育ての一番の悩みや気がかり」の中で学年の上昇とともに増減する項目をそれぞれ図に表した(図1-2-7、8)。

学年を重ねると減少する気がかりは、「アレルギー」「おねしょ、トイレのしつけ」「食事のしつけ」「食事の与え方」「言葉づかい」など、子どものからだの発達や成長に伴って軽減していく内容項目が多かった。「次の妊娠・出産や産後のこと」は上のきょうだいとの年齢差や仕事の関係も含めて年少児がピークとなる悩みである。また、学年が上がるとともに増加していく項目の「ほめ方・しかり方」「友だちとのかかわり」「いじめ」「あいさつやお礼の習慣」は子どもの心の発達や対人関係に関するものである。年長児では「入学前の準備教育」「テレビゲーム」など就学を意識した準備や時間管理の項目が増加していた。

表1-2-2 子育ての一番の悩みや気がかり(首都圏全体・学年×性別)

(%)

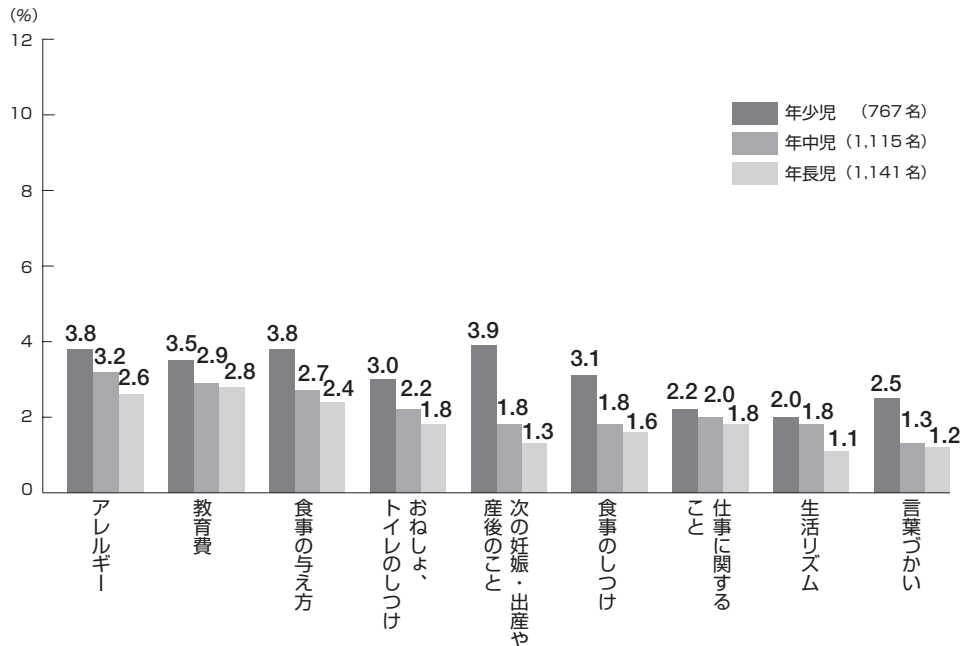
順位	首都圏全体 (男子1,607名 女子1,454名)	年少児 (男子406名 女子360名)	年中児 (男子597名 女子515名)	年長児 (男子584名 女子554名)
1	犯罪や事故 男子 9.8 女子 14.3	犯罪や事故 8.4 13.9	犯罪や事故 10.6 15.3	犯罪や事故 9.9 13.9
2	ほめ方・しかり方 男子 9.5 女子 9.8	ほめ方・しかり方 8.9 6.9	ほめ方・しかり方 9.4 9.3	ほめ方・しかり方 10.3 11.9
3	子どもの性格、態度や様子 男子 7.9 女子 6.5	しつけのしかた 6.4 7.5	子どもの性格、態度や様子 8.0 7.6	友だちとのかかわり 7.9 7.8
4	しつけのしかた 男子 6.5 女子 6.9	子どもの性格、態度や様子 6.9 5.6	しつけのしかた 6.9 8.0	子どもの性格、態度や様子 8.4 6.5
5	友だちとのかかわり 男子 6.0 女子 6.4	子どもの食事のとり方 3.7 5.8	友だちとのかかわり 5.4 6.2	しつけのしかた 6.0 5.4
6	子どもの食事のとり方 男子 4.9 女子 3.9	友だちとのかかわり 4.2 5.0	子どもの食事のとり方 6.2 2.7	子どもの食事のとり方 4.3 4.0
7	人間関係 男子 3.4 女子 4.3	人間関係 2.7 6.1	アレルギー 4.2 2.1	人間関係 3.9 4.2
8	アレルギー 男子 3.6 女子 2.6	次の妊娠・出産や産後のこと 4.4 3.3	人間関係 3.4 3.1	入学前の準備教育 3.9 2.0
9	教育費 男子 2.4 女子 3.6	食事の与え方 4.2 3.3	食の安全性 2.3 3.5	教育費 2.1 3.6
10	食事の与え方 男子 2.9 女子 2.8	アレルギー 3.4 4.2	教育費 2.2 3.7	食の安全性 2.4 2.9

注1) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、上位10項目を表示した。

注2) 項目は一部略記した。詳細は調査票見本(p.156)を参照。

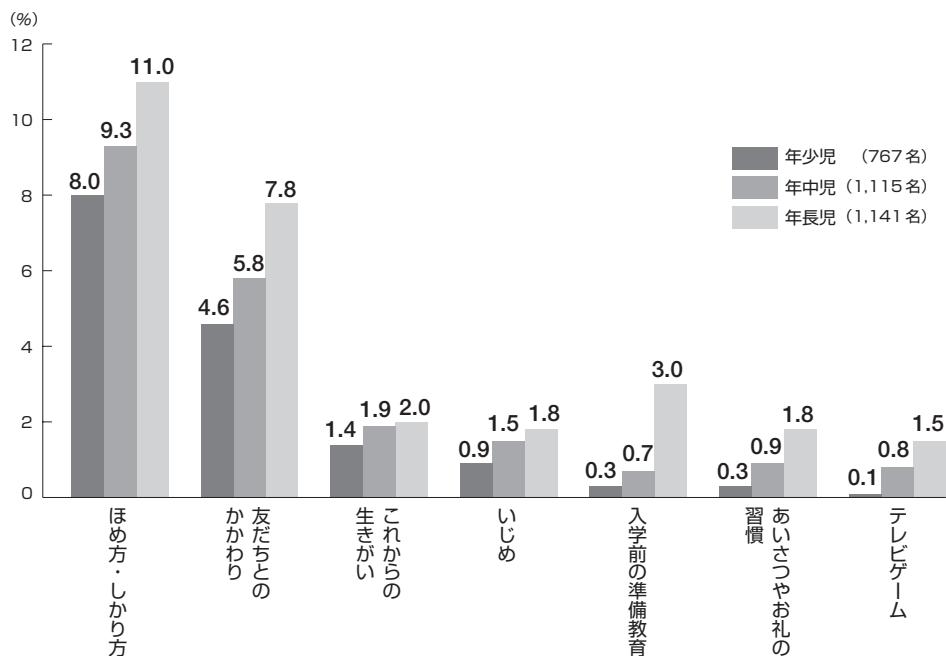


図1-2-7 子育ての一番の悩みや気がかり（学年別、減少項目）



注1) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、9項目を図示した。  
 注2) 項目は一部略記した。詳細は調査票見本 (p.156) を参照。

図1-2-8 子育ての一番の悩みや気がかり（学年別、増加項目）



注1) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、7項目を図示した。  
 注2) 項目は一部略記した。詳細は調査票見本 (p.156) を参照。

しつけや教育の情報源は「近所の友人・知人」「自分の親」「園の先生」「配偶者」「近所ではない友人・知人」が上位5位。新聞やテレビ離れでファミリー情報源が増加したことが特徴的。1人が5つ以上の情報源を活用している。

● 幼稚園・保育園ともに情報源の選択率が増加、情報収集に熱心な幼稚園児の母親  
子どもの「しつけや教育についての情報」をどこから（だれから）得ているかを21項目から複数回答してもらった。その上位12位までを経年比較した（図1-2-9）。

全体の上位の項目を経年比較すると、第1位は「近所の友人・知人」67.9%（03年調査63.5%、以下同）、第2位「自分の親」64.6%（58.2%）、第3位「園の先生」48.9%（45.1%）、第4位「配偶者」44.8%（36.9%）と上位4位までの選択率はすべて03年調査と比べて増加傾向を示していた。

03年調査の「インターネット」8.6%は、08年調査では「インターネットやブログ」としてブログを加えたこともあるが19.3%となり、この5年間で飛躍的に伸びた。また、08年調査のしつけや教育の情報源の特徴としては『マスメディア離れ』と『ファミリー回帰』があげられる。それは第8位「テレビ・ラジオ」31.7%が03年調査より3.0ポイント減少し、第9位「新聞」26.7%は2.9ポイント減少した。それに代わり第7位の「配偶者の親」32.2%が6.3ポイント増加、第10位「親以外の家族・親戚」26.1%は3.1ポイント増加して配偶者や祖父母を含めたファミリー項目が増加した。さらに、「その他」として具体的に記述した114名の中では「自分自身」25.9%がもっとも多く、次いで「職場の人」19.8%、「療育センターや相談室などの先生」13.8%の他にも講習会やセミナー、宗教関係などがあった（自由記述をした人を母数にした比率）。

1人の母親は約5種類（平均値5.15）のしつけや教育情報を活用している。情報源活用総

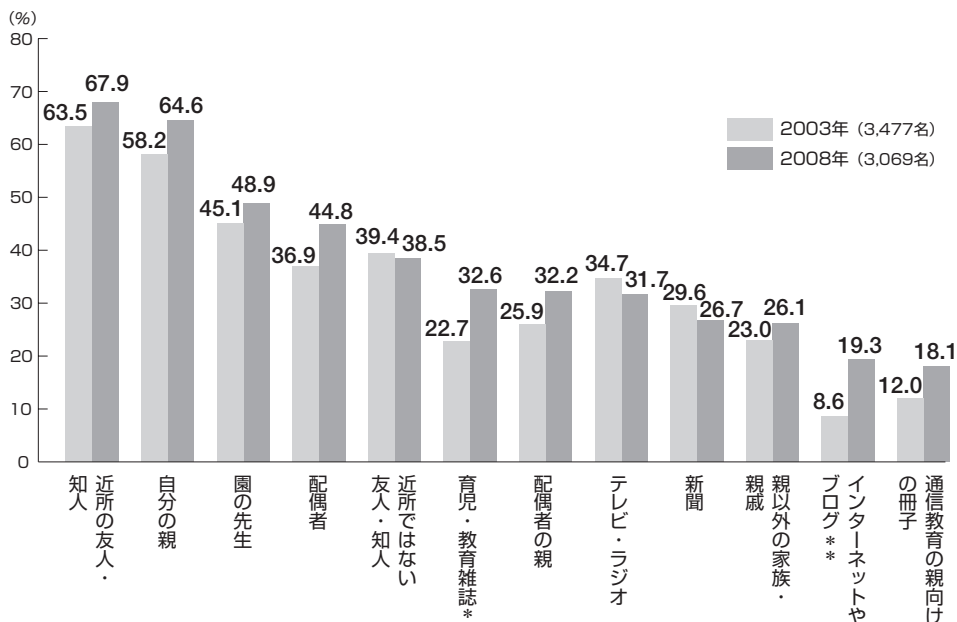
数を1～3（低群）、4～5（中群）、6～18（高群）の3分類で就園状況別に比較した。中群は幼稚園・保育園とも同じ37.8%で、低群は保育園29.8%で幼稚園22.0%、高群は保育園30.8%で幼稚園が39.3%と多かった。また幼稚園のほうが保育園より8項目も選択率が高く（図表省略）、情報収集への熱心さが表れていた。

### ● 子育ての気がかりや家族構成、年代による情報入手先の違い

子育ての悩みや気がかり45項目の回答としつけや教育の情報源21項目をクロス集計した（図表省略）。

結果の一例をあげると、「アレルギー」「ケガや病気」など心身の悩みは「病院の医師や看護師」「保健所の保健師や栄養士」など専門家が情報源で、「近所の友人・知人」や「育児書や教育書など専門書」も参考に行っている。「食事のしつけ」「食の安全性」など食生活やしつけ方法は「自分の親」「園の先生」「友人」を中心に、インターネットやマスメディア情報も入手している。また、「習い事の家庭での練習や宿題」は「習い事や教室の先生」「園の先生」の他に「配偶者の親」や「育児書や教育書など専門書」も参考にしており日常生活の様子がうかがえた。また、年代別の情報源では、調査対象者の多くを占める30代では首都圏全体の平均値とほぼ同じような順位であった（図1-2-10）。ひとり親家庭や多様な家族構成を含む10～20代では第1位が「自分の親」で、「配偶者」は第6位と低く、第4位「近所ではない友人・知人」や第7位「親以外の家族・親戚」が他の年代よりも高い選択率であった。

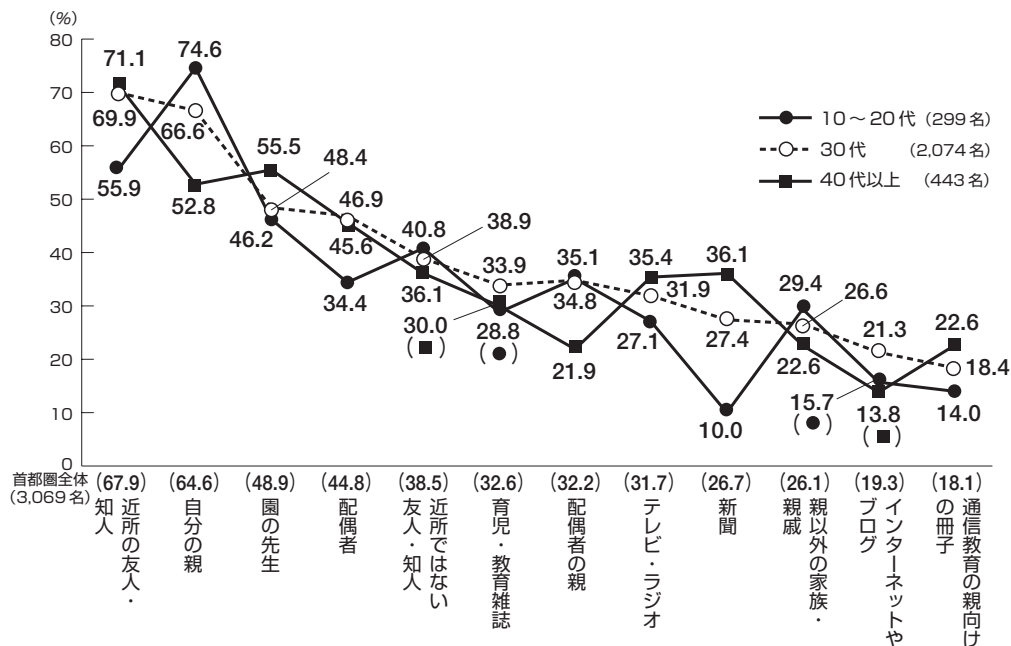
図1-2-9 しつけや教育の情報源（経年比較）



注1) 複数回答。「その他」を含む21項目のうち、12項目を図示した。

注2) \*は03年調査では「育児雑誌」。\*\*は03年調査では「インターネット」。

図1-2-10 しつけや教育の情報源（首都圏全体・母親の年代別）



注) 複数回答。「その他」を含む21項目のうち、12項目を図示した。

## 第4節

# 信頼するしつけや教育の情報源

母親の就業状況や子どもの就園状況で信頼するしつけや教育の情報源は異なる。関心事や悩みによって適切な情報源を選定しているが、とくに常勤の母親の「自分の親」53.5%は03年調査の40.3%から13.2ポイント上昇している。

### ● 子育ての悩みや関心事によって 複数の信頼する情報源を選定

母親が複数回答した「しつけや教育の情報源」の中で、「とくに信頼している人やものを3つまで」選んだ合計が図1-2-11である。

図1-2-9の複数で活用している情報源には「テレビ・ラジオ」や「新聞」もあったが、信頼情報源では身近な人が中心となり、教育関連の専門書や雑誌が上位を占めていた。

1番目に選定された順位では、第1位「近所の友人・知人」32.3%と「自分の親」25.6%が圧倒的に多く、次いで「近所ではない友人・知人」8.6%、「配偶者」8.5%、「園の先生」5.7%が続いていた。

3つの合計値の経年変化では、上位7位までの信頼情報源の選択率は03年調査に比べ「近所ではない友人・知人」を除きすべて上昇しており、しつけや教育の情報への関心度が高まっていた（図表省略）。

そこで、「信頼する情報源」と「子育ての一番の悩みや気がかり」との関連性を検証すると、「近所の友人・知人」を信頼する情報源に選んだ人は「入学前の準備教育」「教育費」「お弁当や給食」「子どもの食事のとり方」などが一番の気がかりで、「配偶者の親」の場合は「運動能力やからだの成長発達」「あいさつやお礼の習慣」「ほめ方・しかり方」を心配していた。「近所ではない友人・知人」を選んだ人は「心の悩み」「園での生活」「次の妊娠・出産や産後のこと」が関心事だった。直接に会って情報入手できる家族や友人だけからではなく、専門情報や最新の動向を書籍や雑誌、専門家からの情報もあわせて吟味していた。

### ● 園の先生への期待感は幼稚園・保育園とも に高く、就業状況で信頼情報源が異なる

母親の就業状況別に「とくに信頼するしつけや教育の情報源」をみたのが図1-2-12である。

就業状況別の上位5位までを比べると、専業主婦は①「自分の親」47.3%、②「近所の友人・知人」46.4%、③「配偶者」33.4%、④「園の先生」28.0%、⑤「配偶者の親」16.7%であった。次に、パートやフリーは①「自分の親」46.8%、②「近所の友人・知人」39.4%、③「園の先生」31.2%、④「近所ではない友人・知人」24.7%、⑤「配偶者」24.5%の順で、常勤は①「自分の親」53.5%、②「園の先生」37.5%、③「近所ではない友人・知人」24.1%、④「近所の友人・知人」22.2%、⑤「配偶者」20.8%となっていた。このように就業状況によって信頼情報源の優先順位は異なるが、とくに03年調査に比べて、常勤の母親の「自分の親」への信頼度が40.3%から13.2ポイントも上昇していた。

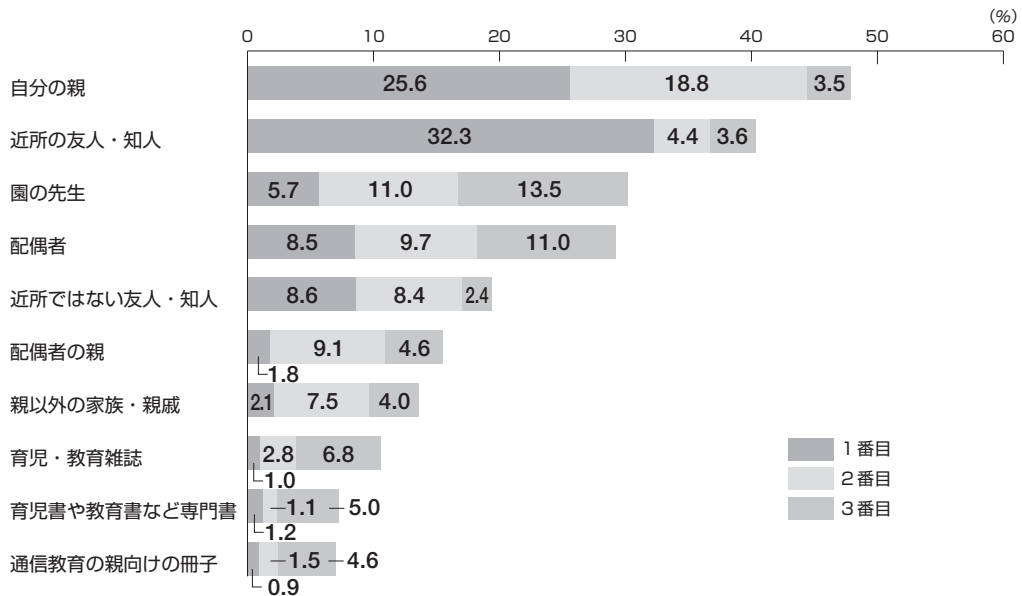
また、別の質問で「園に対するしつけや教育内容の期待意識」12項目をたずねているが、信頼情報源として「園の先生」をあげている母親は、他の人より園でのしつけ・教育への期待感が高い結果であった。信頼情報源の第3位であった「園の先生」を選ぶのは常勤がもっとも多いが、専業主婦とパートやフリーで選択する数値が若干増えていた（図表省略）。

母親の就業状況や子どもの就園状況別によって信頼情報源は異なり、園でのしつけや教育への期待度や内容も変化していた。さらに、近年のあずかり保育の普及、園の地域での子

育て支援態勢の整備などに伴い、園の先生に対するしつけ教育への期待感が幼稚園・保育

園ともに急速に高まっていることが明らかになった（詳細は第5章参照）。

図1-2-11 とくに信頼するしつけや教育の情報源（1番目から3番目まで）

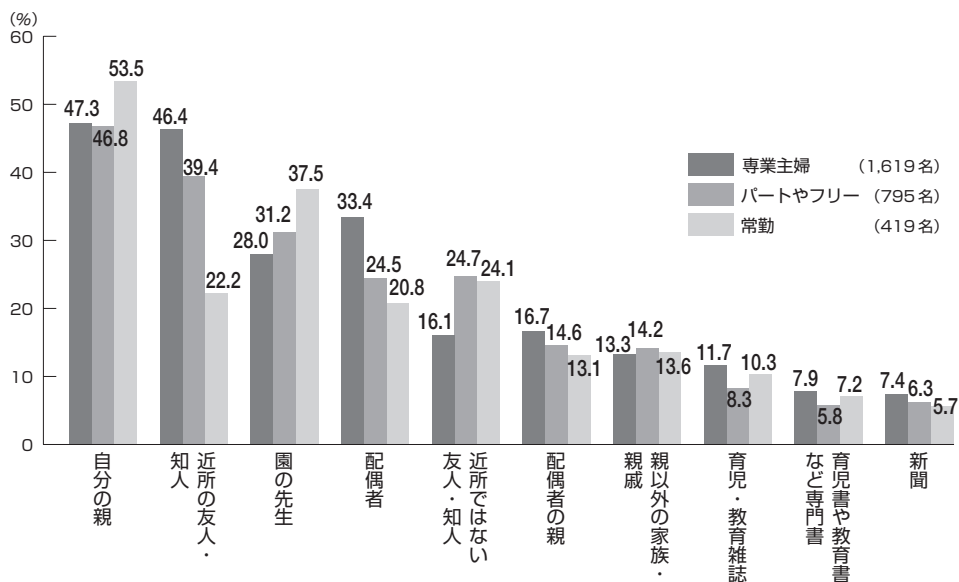


注1) 複数回答。「その他」を含む21項目のうち、10項目を図示した。

注2) 3つまで選んだ回答欄の最初に書かれた項目を1番目、次を2番目、3番目と表記してその3つを積み上げて合計を示した。

注3) サンプル数は3,069名。

図1-2-12 とくに信頼するしつけや教育の情報源（母親の就業状況別）



注) 複数回答。「その他」を含む21項目のうち、10項目を図示した。

# 子育ての悩みや気がかりと情報環境について

## —— 第1回から第3回調査までを振り返って ——

### ● 子どもの食生活への不安感が高まる

3回の調査の「子育ての悩みや気がかり」を比べると、子どもの「ほめ方・しかり方」などしつけの方略、「友だちとのかかわり」「食生活に関すること」の3つの領域項目が、毎回上位10位までに集中してあげられている。

この3領域は時が経過しても園児をもつ母親の子育て生活での共通した関心事である。

食生活の項目を経年比較すると「量や栄養バランスを考えた食事の与え方」(97年調査39.8%→03年調査43.8%→08年調査48.2%、以下同)と「食事のしつけ」(39.1%→42.8%→43.2%)は97年調査から調査を重ねるたびに増加していた。他の質問にある「家庭でのしつけや教育方針」でも、08年調査では「清涼飲料水やジュース、チョコレートなど甘いものは努めて与えない」「安全で健康によい食材を選んでいる」「手作り料理を食べさせるようにしている」のいずれもが03年調査より回答率が上昇しており、母親の食生活行動に対する意識の高さを示していた。

また、食生活に関する項目の中で、「食の安全性」を経年比較すると39.8%→29.4%→43.8%、「食中毒」は34.6%→19.8%→20.9%と97年調査から03年調査で数値がいったん下降して、08年調査でまた上昇している。これは、97年調査当時にはO157やダイオキシン、環境ホルモンの問題が起きていたが、03年調査時には「食」にまつわる事件・事故がそれほど目立たなく、食品の環境問題への関心がうすれていたためと思われる。

しかし、近年は「食育」に関する園や関係諸機関からの啓蒙指導の他にも、昨今の度重なる国内外での食品表示の偽装や中毒問題などが相次いで報道されており、社会的影響を受けた母親は子どもの食生活に危機意識を抱えていることが調査結果にも表れていた。

### ● 母親の情報行動にも変化が起きている

母親を取り巻く情報環境はこの11年間で大きく変化した。

08年調査の特徴としては、「インターネット」の普及に伴い情報源としての「新聞」や「テレビ・ラジオ」離れが進み、さらに「育児・教育雑誌」「通信教育の親向けの冊子」などの活用率が増加したことがある。これらの情報源の共通点は時間と場所を越えて多様な専門情報が入手できる利便性にある。

情報源に「インターネットやブログ」を選定した母親の子育ての気がかりとの関連性や個人の特性、他の質問回答との比較を行った。その結果では、インターネットは最新の専門情報を得ることができる「病院の医師や看護師」「保健所の保健師や栄養士」「カウンセラー・心理相談員」および「育児・教育雑誌」「通信教育の親向けの冊子」とタイプの役割パターンをみせていた。

もう1つの特徴は、「自分の親」や「配偶者の親」「親以外の家族・親戚」に代表される広義の「ファミリー」が信頼情報源として不動の位置を占めてきたこともあげられる。

3回の調査を通じて「活用情報源」および「信頼情報源」としては、「近所の友人・知人」「自分の親(97年調査では「実家の母」)」「配偶者」「園の先生」「近所ではない友人・知人」が常に上位にあげられている。

「活用情報源」をみると、08年調査では、「自分の親」64.6%と「配偶者の親」32.2%の選択率が03年調査より大きく上昇していた。家族構成や母親の就業状況でみると、「自分の親」はとくに常勤で三世同居している母親が77.6%と顕著に高い。しかし、「配偶者の親」に関しては核家族の専業主婦33.4%が他より明らかに高いという結果であった。

今回の巻末の時代環境年表に平均的な調査

対象者としてあげられている33歳で4歳児の母親の「自分の親」は59歳の団塊世代である。人数が多い団塊世代の親は定年時期にさしかかり、時間や経済的な余裕がある層は、同居の有無にかかわらず次世代の子育てを支援する準備態勢ができています。少子化の中で社会的にも出産・育児がファミリー・イベントとして待ち望まれる背景があることも、子育てに対する母親の役割意識を肯定する要因になっていると思われる。

「自分の親」を「信頼情報源」にしている人は「子育ての楽しさ」を「とても楽しい」、「母親としての満足度」も「かなり満足している」と回答している比率が明らかに高かった。

また、親子を取り巻く「親以外の家族・親戚」として、近年は独身の兄弟姉妹や従姉妹が増えて、彼らが従来の「6つポケット」ならぬ「複数のポケット」として、1人の子どもの誕生や成長をわが子のように見守る存在となる。そのような「拡大家族」が少子化の子育てを周辺から支援しているともいえよう。

### ●園の先生への期待が急増している

97年調査では、「信頼情報源」の他に「しつけ教育を考えていく上で、具体的な母親のお手本やモデルにしたい人」をたずねた。

母親が特定化した子育ての「母親モデル」は、いわば子育ての準拠者である。

その具体的な対象と「信頼情報源」の関係性を検討した結果では、「信頼情報源」の第1位として選定した対象を「母親モデル」として選んでいることが、明らかに多いことが検証された。つまり、母親は子育ての情報環境の中から意図的に情報源を選定しており、信頼できる友人や家族、先輩や先生などを、「しつけ教育の規範」として私的受容をしながら内面化している。

どの「しつけや教育の情報源」を活用して「信頼情報源」と選定しているかによって、その情報源の集団への関与意識も高くなる。たとえば、08年調査では、「園の先生」を「信頼情報源」に選んだのは常勤や保育園児

の母親に多く、園や園の先生に対しては子育ての協同参画意識をいだいている。家族構成ではひとり親家庭を含む「その他」も多くを占めていた「幼稚園や保育園に対して、親は積極的に意見を言ったほうがよい」を選択した人や「園選びの考慮度」について「よく考えた」人は、「園の取り組みや指導の満足度」で「とても満足している」がもっとも多いという特徴がみられた。

さらに、「園でのしつけや教育内容への期待意識」12項目を4段階でたずねた回答を分析した結果では、3つに分類された。

1つ目は「あいさつやお礼をきちんとすること」「遊んだあとの片づけをすること」「ぎょうぎよく食事をする事」「ルールやきまりを守ること」「規則正しい生活リズムを身につけること」など『健康生活リズム』。2つ目は「人の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりすること」「思いやりや道徳心を育てること」「友だちと仲良くすること」「子どもの興味・関心を伸ばすこと」で『人とのかかわり』。3つ目は「音楽や美術など芸術面の才能を伸ばすこと」「文字や数を教えること」「運動能力や体力を高めること」の『能力・表現育成』であった。

これらを「子育ての悩みや気がかり」と比較分析した結果では、「食生活や日々のしつけのしかた、友だちとのかかわり、入学準備教育」などに関する気がかりをあげている母親は「園へのしつけ教育期待」が高く、さらに信頼情報源として「園の先生」をあげている母親は3つの期待感のいずれもが高いことが明らかになった。また、専業主婦は『健康生活リズム』、常勤は『能力・表現育成』への期待がもっとも高く、いずれも子育ての専門家として、またしつけや教育の担い手としても園の先生への母親の期待感が急増している状況が表れていた。

今後も母親にとって家族と友人や先生は重要な準拠情報源であるが、関係性のあり方は時代や環境に伴い変容していくと思われる。